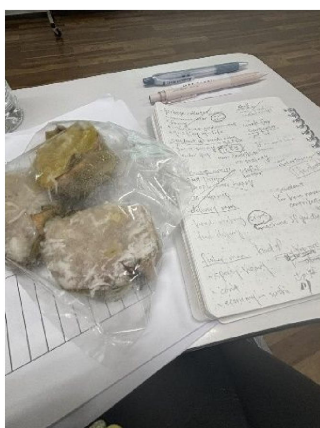


外国語学部英米学科 1 年（参加時）

私は一年の春休みにバンコクにあるキングモンクット工科大学へ短期語学研修に行ってきました。この留学に参加した理由や留学中の授業内容、授業外での動き、留学中で感じたことなどを書きたいと思います。

私は一年の二学期に「世界の学び方」という授業を履修していて、その授業の中でこのプログラムに参加した先輩がお話をしてくださり、そこでこのプログラムに興味を持ちました。参加申込は締め切られていたのですが、プログラムを実施するための人数が足りておらず、締め切り日を伸ばすということをこの授業の中で知りました。私はもともと長期で留学しようと思っていたので留学費用的に参加をどうしようかぎりぎりまで迷っていましたが、今参加しなかったら後悔すると思い、申込締め切り二日前くらいの夜中に両親に LINE で参加したいことを伝えたところ、参加してみたらいいんじゃないかと言ってくれたので、すぐに申し込み手続きに必要なことを一緒にやってもらいました。短期留学が終わった今、参加して本当によかったなと思うし、参加させてくれた両親に感謝です。



語学研修ということでまずキングモンクット工科大学での英語の授業について書きたいと思います。北九大生の参加者のみで、9時から12時と13時から16時の一コマ3時間、1日二コマでした。一コマの中に、途中10分から15分くらいの休憩時間があってペットボトルの水とお菓子を出してくれて食べることができました。授業内容としては、スピーキングに特化していたと思います。2人から3人のグループに分かれて活動することが多かったです。シチュエーションを決めてそれに合った英語の台本をつくり、それをみんなの前で披露するというものや、一つの絵からストーリーをつくり出してそれを発表するもの、それぞれ職業を持たされて一人しか残れない状況において自分が残るべきと説得させるためのディベート形式のようなものなどがありました。最後の授業のほうは原稿をしっかりと作って読むというのではなく、考えながら伝えるみたいな感じでした。例えば、質問やお題が書かれた紙を引いて、それについてどのように話すか準備する時間が3分くらいあり、メモは見ずに1分半くらい話すというものがありました。またトピックは自由で、調べたりメモをしたりする時間が15分くらいあって、それを基に5分以上

話すというものもありました。北九大の授業でもプレゼンテーションの授業はありますが、準備期間に1週間はあるので、その場で考えて5分以上話すということはとても難しかったです。焦って全然英語が出てこないし、話す構成もめちゃくちゃになってしまいま

した。それに比べて先輩方は構成もしっかりしていて言いたいことがずっと入ってくるような発表で、同じ準備時間であるのにすごいなと思いました。もともと話すことが苦手で何を話せばいいかわからないから話すことを避けてしまっていたところもあって即興で話すということが私にとって難しくなっているのではないかと思ったので、これからは避けずに人ともっと話すようにしようと思いました。スピーキング力を高めたいと思っていたので、勉強の仕方やこれから自分が気を付けるべきことがわかり、この授業は私にとっていいものだったと思います。また、今回15人の学生が参加してそのうち11人が2年生や3年生で、先輩方との英語力の差に落胆しながらもこれから頑張るぞとも思えたので、一年生のうちに参加できたことも良かったと思います。

次に、英語の授業以外のことについて書きたいと思います。このプログラムでは英語の授業以外にタイの文化について学ぶ授業が二コマとタイと日本の culture exchange の時間がありました。タイの文化について学ぶ授業ではタイの基本的な文化についてはもちろん、タイ語の文字を書いたりタイの建造物などに使われている複雑な模様をなぞってみたり、この授業を通してよりタイ



に興味を持つことができました。Culture exchange ではバディではない一般のキングモンクット工科大学の生徒に日本文化を楽しんでもらって交流をしました。そこで友達ができ、放課後にご飯を食べに行ったりお買い物を楽しんだりもしました。現地のタイの学生と交流するきっかけができて良かったです。

放課後は毎日タイのバディにいつもどこかに連れて行ってもらってタイを十分に楽しむことができました。レストランにご飯を食べに行ったり、タイのショッピングモールに行ってお土産を買ったり、日本にいるときより大学生をしていて楽しかったです。タイのバスやタクシーに乗ったり、ロットカポーという乗り物にも乗ったりして、日本の乗り物との料金の差や乗り物のスピード、料金の払い方などの違いも知ることができるいい機会でした。タイの生徒と話していて、母語がタイ語の上に工科大学であるのに英語を流暢に話していることに、「私ももっと頑張らないと」と思われました。また、日本語を話せるタイの生徒もいて「なんで話せるの?」「どうやって勉強したの?」と聞くと、「日本が好きだから」「日本の音楽が好きでYouTube で勉強した」という回答が返ってきて、日本語を勉強しているノートも見せてもらって、その様子からも自分の頑張りの足りなさを実感させられました。これからはもっと自主的に勉強に取り組むべきだなと思いました。

最後に、私はこのプログラムに友達と参加したとかではなく、一人で参加を決めました。しかし、一緒に参加した北九大学生の方々がとても優しくいい人ばかりで、先輩との繋がりをおもい作れずにいた私にとってとてもいい機会にもなりました。英米学科の人がほとんどで勉強方法や履修の話なども聞くことができてよかったです。タイの学生たちもフレンドリーでいい人ばかりで、初めての海外がタイで良かったなと思います。ときどき言いたいことを英語で伝えきれない時があり、タイのバディが頑張ってくれてくれようとしてくれることもありましたが、やはり伝わらないということが悔しくて、次海外に行くときにはもっと話せるようになっておきたいと思いました。私のこのプログラムの参加は思いつきであったとも言えますが、本当に参加して良かったなと思います。楽しく、かつ学びも得られた短期留学になりました。

キングモンクット工科大学短期語学研修体験記

文学部比較文化学科 1 年（参加時）

私は 1 年生の年度末の 2 月 25 日から 3 月 10 日にかけて 2 週間、タイのキングモンクット工科大学（KMUTT）に留学しました。一年後期の 11 月に申し込みをし、トータルの費用は約 25 万円程でした。ここからは留学について知りたい人向けに、体験記や情報をまとめていきたいと思います。

タイ留学のメリット

- ・英語ネイティブではないこと

→タイの母国語はタイ語であり生徒が英語学習の難しさを理解してくれていたため、私の拙い英語も理解しようと一生懸命耳を傾けてくれました。また、タイ語には省略がなく、話すときも「I am」を「I'm」にしたりしないので聞き取りやすかったです。

- ・親日国であること

→どのお店に行っても外国人だからと嫌な対応をされることはなく、むしろ日本人と伝ええると嬉しそうにもらえることもありました。学生の中には日本語を話せる子もいて、英語に自信がなくても積極的にコミュニケーションをとりやすかったです。

- ・安いこと

→タイ留学のメリットとして大きいのが、価格を抑えられることです。タイは物価が安いのもあり、他の短期語学研修プログラムに対してかなり安く抑えることができます。また、滞在中にかかる食費やお土産代などの諸費用も安く済ませることができました。

タイ留学のデメリット

- ・英語が母国語ではないこと

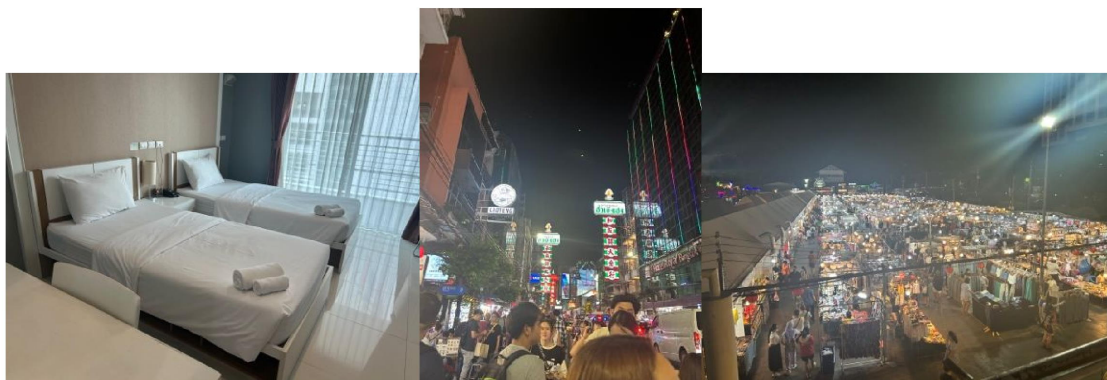
→メリットのところでも書きましたが、タイの母国語は英語ではないため、英語の発音などに細かくこだわりたい人には向いていないと思います。ただ、みんなよく英語を勉強しておりかなり流暢な英語を話すので、私は全然気になりませんでした。

- ・潔癖や、細かいところが気になってしまう人には多分合わないこと

→タイはシェア食文化で、さらに屋台でご飯を食べることも多いので、虫が飛んでいる中で食事することも多かったです。また、タイバディとの夕食の予定も当日のギリギリに決まるが多かったのできっちり計画を立てたいタイプには正直きついと思います。

向いている人物像

私の感じた、向いていると思ったタイプは、海外初心者や、細かいことを気にせず行ける人です。後で詳しく述べますが、KMUTT のプログラムは、英語を学ぶ授業に加えてタイ文化を学んだり観光したりできる機会が多く設けられており、初めてのタイでも大満喫できると思います。生徒も先生も優しくしてくれるので、英語に自信がなくても積極的に挑戦しやすいと思います。また、北九大担当のバディが複数人ついてくれるので、毎晩のようにナイトマーケットなど色々なところに連れて行ってくれ、タイについて何も知らなくても十分楽しめると思います。



タイ生活のリアル

・治安

→留学前は治安が悪いと聞いてきましたが、特に何も盗まれることなく無事に 2 週間過ごすことができました。車の運転の荒さや、横断歩道で信号が青になっても渡れないなどはありましたが、そこまで生活に支障があるレベルではなかったです。

(私たちの運が良かっただけかも知れませんが)

・食文化

→タイ料理は辛いもの、酸っぱいものが多く、日本ではなかなか食べない味のものが多く始めは合わないと感じていましたが、3日目くらいから慣れて美味しく食べられるようになりました。(個人差はあると思います。)

また、バーガーキングや KFC, マックなどのチェーン店や日本料理店が多くある上、タイ料理でも日本食に似た味のものがたくさんあるので、自分でストレスを感じないように調節することはできると思います。また、水は大学とホテルから一日 500ml 3 本程度提供されたので自分で買わなくても十分な量でした。

・物価

→全体的に物価は安く、学食なら 1 食 60 バーツ (日本円で約 240 円)、外食しても 500 円程度で食べられます。お土産は Big C という地元のスーパーで安く大量にゲットでき、500 バーツ (2000 円程度) もあればバイト先にも十分配れる、相当な量を買うことができます。留学時に日本円からバーツに換金する場合、全部で 3 万 5 0 0

0 円程度あれば2週間過ごせると思います。ただ、クレジットカードが使えるところは少ないです。買い物の際 1000 バーツ札などの大きいお金は払いにくいと感じるかも知れませんが、ほとんどの店は丁寧に対応してくれるので大丈夫です。

- ・日用品

→KMUTT 構内や近所に大量のセブンイレブンがあったり、徒歩 30 分で行けるとところにマックスバリューがあったりするので、薬以外の日本製品は基本何でも買えます。シャンプーや生理用品など生活用品のほとんどは日本メーカーのものを揃えられるので最悪日本から持ってきて忘れても現地調達できます。

- ・体調不良

→私は大丈夫でしたが、連日 30° 以上の猛暑や疲労で体調を崩す人はかなり多かったです（15 人中 8 人）。体調不良時のゼリーやお粥などの食料も現地で簡単にゲットでき、ホテルの部屋も清潔なので何とかなんとかなると思います。

- ・学外で英語は通用するか

→大体何とかなります。バスなどタイ語しか通じないところもありましたが、翻訳アプリを駆使して伝えようとするとう基本的に対応してくれます。

- ・あったほうがいいもの

→洗濯ネットは同部屋の子と一緒に洗濯する上でマストです（私は現地のマックスバリューで買いました）。塩分チャージタブレットも、粉のポカリよりも汎用性が高いのでおすすめです。



私の英語力とリアルな所感

参考までに、私は留学前ほとんど英語を勉強しておらず（何なら必修英語落単しました）、英語は全くと言っていいほど話せませんでした。ちなみに TOEIC スコアは 540 でした。周りの参加者のほとんどは英米学科で、自分からしたらみんなスラスラだったし、初日 2 日目は英語がほとんど聞き取れずずっと黙っていましたが、幸いタイの皆さんは本当に優しく、先生含め皆さんが丁寧に私の言っていることを理解しようとじっくり聞いてくれたので、何とか授業に食らいつくことができました。授業は北九大の学生と現地の先生のみで行い、準備時間 5 分ほどの即興プレゼンが多かったです。即興プレゼンは日本ではなかなかやる経験がなかったのでためになりました。ただ私のように「何とかなるだろう」という考えだけできてしまうと少しきついと思います。私は「何とかなる ではなく、何とかする」という強

い意識を持って、全然英語が分からなくてもたくさんの生徒や先生に積極的に話しかけていたので、恥をかきに行くくらいのマインドで臨んだほうがいいと思います。

タイの学生と話すときは、正直に「Sorry, I cannot speak English well.」と伝え、「Don't worry!」と言ってゆっくり話してくれたり、翻訳アプリを駆使してコミュニケーションを取ろうとしてくれたりするので、物怖じせずたくさん話すことができました。「誠意と愛想の良さ」を持って接すればきっと応えてくれると思います。

留学を通して得たものとまとめ

私は今回の留学を通して、「海外でも生きていけるという自信」と「言語の壁を超えてコミュニケーションをとることのできる嬉しさ」を感じることができました。留学前は文化の違いや英語力の自信のなさで不安だらけでしたが、いざ行ってみると文化の違いもそこまで感じることなく、それなりにコミュニケーションをとって仲良くなれることに気づきました。この経験は日本ではなかなか得られないので本当に行って良かったなと思います。

今回できたタイの友達や授業を教えてくださいました KMUTT の先生に再会するために今年の夏にもタイを訪れることに決めたので、それまでに英語力をアップさせて成長した姿を見せられるように学習に励みたいと思います。



KMUTT English Spring Camp 参加報告書

外国語学部英米学科2年（参加時）

私は今回 2024 年 2 月 25 日から 3 月 10 日までの二週間タイのバンコクに語学研修の活動として滞在しました。そこでバンコクでの主な活動を英語の授業、タイの文化の授業、タイ学生との交流、フリータイムを用いた町散策、フィールドトリップを通したタイの文化、歴史体験の 5 つに分けて報告させていただきます。

まずはキングモンクット工科大学でうけた授業についてです。KMUTT では主にタイ文化と英語の授業受けました。一つの授業が 3 時間で日本よりも授業時間が長く集中力を持たせるのが大変でしたが、間に一度休憩時間を含めたおやつタイムがあるので毎回楽しく受けられました。初めに英語の授業ですが内容自体は日本で受けている英語の授業と変わりなく 4 技能を満遍なくさらう形式でした。しかしクラスメイトが 15 人しかいないため発言する回数やグループワーク、ペアワークが多く積極的な授業参加が求められ、英語の実践スキルがこれまで以上に身につきました。また、劇の台本を作ってクラスメイトの前で披露したり、職業のロールプレイを用いてディベートの練習をしたり、引いたお題に沿って短い時間でプレゼンの準備をして発表をしたりと少人数だからこそできる授業形態だと感じました。

続いてタイの文化についての授業です。タイに到着時、私たちのほとんどはタイ文化について事前オリエンテーションで得た知識レベルでしか持っていませんでした。そこでタイで安全に楽しく研修を行うために 2 日目のオリエンテーションの時間にタイの簡単な挨拶とタブーとされていることを学びました。その後、大学内でタイ文化の授業を 4 回受けました。簡単な挨拶や文化に加えて、タイのアルファベットや数字の数え方について勉強できたため帰国時には簡単なコミュニケーションが取れるようになりました。

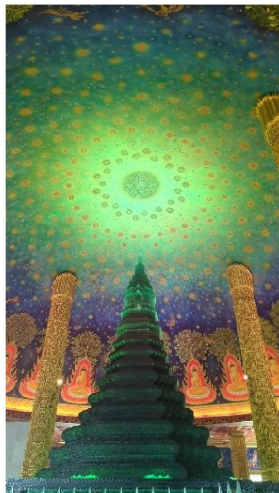
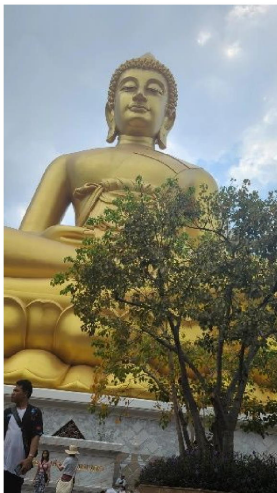
次に、タイ学生との交流についてです。初めて学生たちと会うのは初日の空港です。何人かに別れてバンに乗り空港からホテルまで一緒に着いてきてもらいました。この際に同じバンに乗った子たちが次の日のオリエンテーションでも名前を憶えて話しかけてくれ、それ以降も気さくに声をかけてくれ、とても楽しい二週間となりました。次の日も大学に着くと学生たちが迎えに来てくれてオリエンテーションや学内案内を一緒に受けました。その後は仲良くなった学生に放課後にご飯に連れて行ってもらったり休日のフリータイムにお買い物や観光地に行ったりしました。授業後に市場に連れて行ってもらったり、地元の市民食堂やカフェに連れて行ってもらうこともありました。また、二週目には Cultural Exchange

という授業があり、そこでバディではないタイの学生と仲良くなることも出来ます。ここで仲良くなった子たちに友人を紹介してもらってご飯に行くこともありました。

続いてフリータイム、フリーデーについてです。こちらは平日の授業後に市場に連れて行ってもらった時の写真です。現地の食べ物や雑貨、日用品がたくさんあり楽しい夜を過ごせました。

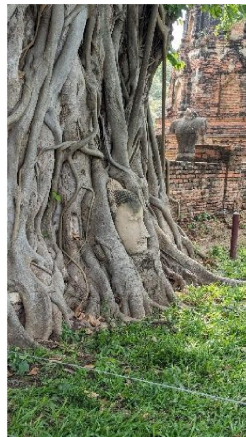


下の写真はフリーデーにタイの学生バディに連れて行ってもらったワットパックナムでのものです。一日丸ごと自由な日があるのでこの日は少し遠くまで学生に連れて行ってもらえます。観光地としても人気のスポットに行き、大きなモールで買い物をし、夜はカラオケにも連れて行ってもらいました。



最後にフィールドトリップを通したタイの文化、歴史体験についてです。二週間の研修中に三回のフィールドトリップがあり、アユタヤ遺跡や象に乗る体験、タイの伝統のお菓子作り、水上マーケット等に参加できます。学生バディとガイドさんとともにタイの有名な場所

を訪れるためただの観光ではできないような体験ができました。実際にタイのドレスを着たり、お菓子を作ったりして伝統文化を体験できるだけでなく歴史的な建造物を見たり、博物館を訪れて歴史について学びました。フィールドトリップの際には毎回ローカルレストランで昼食をとることができタイの伝統料理、地元料理を食べることもできました。こちらは水上マーケットと遺跡の中にあった木の中に埋め込まれた像の顔です。それぞれに現地のガイドからの説明が入るため毎回勉強になりました。



今回のバンコクでの二週間の語学研修を通して私は積極性の大切さを改めて痛感しました。初日の、学生バディとの顔合わせのタイミングで積極的に会話をし、仲良くなれたことその後の二週間、話す機会も一緒に出掛けることが多かったし、Cultural Exchangeのタイミングで積極的に声をかけに行った現地学生とは今でも連絡が続いています。授業も参加人数が少ない分、積極的に発言をすることが自分の成長につながったと感じましたし、先生と積極的にコミュニケーションをとることで英語にもタイのことにも自信をつけられたように感じます。また、二週間ほとんどの時間を北九大の皆と過ごしたため学年、学部の壁を越えて新たな繋がりを作ることもできました。この二週間は間違いなく今後の英米学科の学生としての私にとってもこれからの私にとっても人生の大きな起点となりました。今回得られた縁と知識と経験をこれからの人生に有意義なものとして活用していきたいです。